

**HIROKYU ヒロキューの付けエサ**  
**生アサリ ムキミ 大盛りパック** ▼水抜き穴が付いているので、そのまま洗い流せる  
**生アサリ ムキミ**

釣りエサの総合メーカーヒロキューからカワハギ用の付けエサも発売されている。小粒のアサリを瞬間冷凍してあるので、新鮮さをキープ。大盛りパックは400グラムの容量で、一日釣りには十分。当日のしほみんも半分近く余らせるほどだった。ファンにとってありがたいのが水切り用、穴あきの簡易ザル、容器から外してそのままヌメリを洗い流せる優れものだ。生アサリムキミは90グラムパックで短時間の釣りに最適だ。価格はいずれもオープン。



▼新鮮で小粒なアサリを厳選

( **生アサリ ムキミ 大盛りパック** ) ( **生アサリ ムキミ** )



★生アサリ ムキミ 大盛りパックは水切り用の簡易ザル付き  
 ★生アサリ ムキミ 90グラムパック



▲愛しきカワハギに思わずほおずり



▲前半は潮の流れが速く釣りづらかった  
 ▶あっけなく釣れた1枚目



★「バレないで〜」と言いながらヒヤヒヤのヤリトリ



★中盤まではいいペースで釣っていたが……



★苦手なカワハギ釣りを見事に克服。納竿10分前に10枚目を釣り上げた

目標10枚目！

不定期連載◎第3回  
**三浦半島鴨居大室港出船のカワハギ**

**しほみん、苦手な釣りに挑戦 念願の2ケタ釣りを達成の巻**



▲竿頭はこれの方、23枚はご立派  
 ▲女性アングラーも楽しそうに釣っていた



▲平均で10枚前後、土産には十分だ  
 ▶肝パンの20センチオーバーもかなり交じった



▲当日最大は29センチだった  
 船中では上がるのは15〜20センチの中型がメイン。掛かるのはほとんどが底中心で、しほみんは重めのガン玉を打ち、仕掛けをややたるませる釣り方で攻めていく。  
 前半は速い潮の流れで釣りづらそうだったが、



やっぴい〜

し、同船者の釣り方を見よう見まねで釣っていたしほみんが、「きた、きたかも〜」と言いながら半信半疑でリールを巻き始める。現れたのは17センチほどのカワハギながら、「やっぴい〜」と大はしゃぎ。10分後には同級をキャッチして、早くも自己タイ記録となり船上に黄色い声が響き渡る。  
 船中では上がるのは15〜20センチの中型がメイン。掛かるのはほとんどが底中心で、しほみんは重めのガン玉を打ち、仕掛けをややたるませる釣り方で攻めていく。



いよいよ！  
 念願の2ケタ釣りに挑戦



▲好調な鴨居沖、この日も平日ながらほぼ満船



▲使用したのはヒロキューの付けエサ  
 ◀「いくよ〜」と出船前はいつものように元気いっぱい

★オールマイティに船釣りを楽しむしほみん(吉野七宝実)だが、すべての釣りが得意ではない。一つや二つ苦手とする釣り物があるのはだれもが同じ。しほみんにはカワハギがそれにあたる。今回は苦手意識を払拭したいと、あえてカワハギにチャレンジした。

しほみんのカワハギ釣り動画はこちらから  
 ★当日の様子は以下のヒロキューサイトからご覧いただけます。

「カワハギ料理、いっぱい作っちゃおうよ〜」と言いながら上機嫌で船を下りたのであった。

「やった、やった〜」とこれ以上のはしゃぎように、周囲の方たちは大笑い。直後に納竿合図が出された。  
 船中では15〜29センチを3〜23枚。3度目の挑戦で10枚なら上々。

「バレないで〜」と小さくつぶやきながら、ようやく海面に浮かせたのは当日最大22センチのカワハギだった。  
 「やった、やった〜」とこれ以上のはしゃぎように、周囲の方たちは大笑い。直後に納竿合図が出された。

時速1〜2枚のペースながらコンスタントに数をのばしていく。午後1時を過ぎた時点で、ついに9枚目をキャッチ。目標クリアは時間の問題かと思われたが、あと1枚が釣れない。  
 このころには潮が止まって、今度はまったくタイム。納竿まであと10分となって本人もあきらめかけたとき、ゼロテンで待っていた穂先が突然たたかれた。これまでにない真剣な表情で巻き上げるしほみん。カンカンという金属的な引きはまぎれもない本命だ。  
 「バレないで〜」と小さくつぶやきながら、ようやく海面に浮かせたのは当日最大22センチのカワハギだった。

乗船したのは三浦半島鴨居大室港の五郎丸。このところ好調な釣り場、鴨居沖を至近に有する港だけに平日とあっても大盛況。しほみんは右舷ミヨシに席を構え、7時半に出船となった。「私、カワハギをツ抜けするのが夢なんです」とのこと、当日の目標は10枚以上となった。タックルと仕掛けはしっかり用意、エサはヒロキューの「生アサリ大盛りムキミ」を使用。400グラムの容量は一日釣りでも使い切れないほどだ。  
 まず10分ほど走った水深20メートル前後で釣り開始。北東の強風に加えて下げ潮が速く、道糸は大きくトモ側に流れる悪条件。それでも持ち前の明るさで「いくよ〜」と大きな声を上げて第1投。

開始10分過ぎからポツポツと本命が上がります。周囲を見渡して第1投。  
 開始10分過ぎからポツポツと本命が上がります。周囲を見渡して第1投。

「カワハギを食べるのは大好きなんですけど、釣るのは大の苦手なんです」と言うしほみん。詳しく聞くと、これまで2回の釣行でわずか2枚しか釣れず、アタリも分らず引き味も楽しめなかったとのこと。  
 大好きなキハダ狙いも一段落し、これからの釣り物を考えたとき、まず苦手な釣りを克服したいとのこと、今回の釣行が実現した。